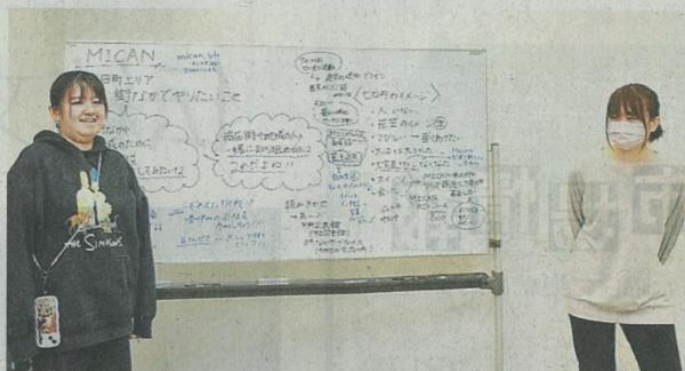


もっと福祉の街づくり

山形市社会福祉協議会が立ち上げたジュニアボランティアサークル「MICAN」が、地域を元気にしようとして活動している。中学生から大学生までが企画・運営を担い、今後は中心市街地での取り組みを通して福祉の街づくりに貢献していきたいと考えた。

新型コロナウイルス禍の影響でボランティア活動が制限されてきたが、福祉や看護の道に進みたい子どもたちが取り組める場をつくろうと、昨年9月に発足。サークル名は「mission」（使命）

中高大生ボランティア 山形を中心に活動



街なかで行うボランティア活動についてアイデアを出す「MICAN」のメンバーたち

＝山形市総合福祉センター

経験、知識積む場に

の頭文字と「can」（できる）を組み合わせ、「今は『未完』だが、成長を遂げられるように」と願いを込めた。

現在は中学1年から大学3年の約20人が参加。毎月第4火曜日に市総合福祉センターに集まり、車いす清掃や遊戯室の飾り付けなどを行っている。今後、七日町など街なかでの活動を目指す。東北文大1年齋藤詩佳さん（19）＝河北町溝延＝と東北福祉大3年川崎里佳子さん（21）＝山市長清水1丁目＝は「（筋力が低下する）ロコモティブシンドローム（運動器症候群）予防のための体操をしたい」「通学途中にごみ拾いをしたい」ののではないかと考えた。構想を持っており検討している。

代表の東北文大1年土田静宮さん（19）＝山形市三日町2丁目＝は「学校では学べないような経験や知識を積みたい。MICANならではの活動を増やし、メンバーが活躍できる機会を増やしていきたい」と意気込んでいる。

随時、参加者を募集している。問い合わせは市社協ボランティアセンター023（645）6233。（柴崎愛）